

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校は、「知・徳・体」の調和のとれた人格の陶冶をめざし、高い志と夢を持って、21世紀を担うことのできる有為な人材を育てる。

- 1 良識溢れる豊かな人間性を持ち、国際感覚に富んだ、社会に貢献できる、リーダーシップを取れる人材を育成する。
- 2 学校をめぐる情勢の変化に迅速に対応しうる機能的な組織運営に努め、他校をリードする先進的な学校づくりを展開する。
- 3 「入りたい」「入ってよかった」、保護者や地域社会から「入らせたい」「入らせてよかった」と期待され信頼される学校を創る。

2 中期的目標

1 学力の向上と「知・徳・体」の調和のとれた人格の陶冶

(1) 進学を重視した規律ある学校として大阪を代表する全日制普通科単位制高校の確立をめざす。

- ア 生徒のニーズの変化に対応し、進路目標の実現に向け常に適切にカリキュラムや指導方法の研究を行なう。
- イ 本校での学習活動のみで、国公立大学難関私立大学への現役合格に必要な学力を育成する。
※29年度においてセンター試験受験率90%以上、国公立大学合格者現役20%以上をめざす。
- ウ 土曜講習、長期休業中等の講習、週末課題等の内容を精査・改善し、進路実現のための基礎固めを図る。
- エ 「槻の木 NEXT STAGE」(企業訪問、高大連携、国際交流・海外研修、地域連携など)の取り組みや体験・発表型学習によって、思考力・判断力・表現力等を育成し、社会で生き抜くための人間性の涵養に努める。

(2) 「規範なくして学力向上なし」の合い言葉に、高い倫理観と強い精神力を育て、学業と部活動・学校行事の両立のための支援と指導を行なう。また、安全で安心して学校生活に取り組める環境を確立・発展させる。

- ア 学習指導・生徒指導・進路指導などの学校経営において他校をリードし、他校の範となりうる工夫、実践に努める。
※29年度においても一日平均学習時間を府内トップレベルにし、遅刻者数府内最少を維持する。
- イ 教育相談体制を構築し、個々の生徒情報の共有と対応を図る。また、人権尊重は、高い倫理観や豊かな人間性の基盤になることを理解させ、教職員にも人権意識と生徒指導スキルの向上を図る。

(3) グローバル社会で活躍できる「知・徳・体」の調和のとれた人格の陶冶に向けて、生徒指導や学校行事や「槻の木 NEXT STAGE」の取り組みなどによって、社会で通じる礼儀やマナーを身につけさせるとともに、行動力や人間関係調整力などの習得をめざす。

2 先進的で他をリードする学校づくり

(1) 教職員の指導力向上をめざし、授業改善に努めるとともに生徒指導、進路指導面においても指導力の向上をめざす。

- ア 府内外の先進校(高校、大学等)への教師派遣

(2) 組織的な協働体制による学校運営の確立

- ア 教職員全員で組織的に校務に取り組めるよう効果的・効率的な組織体制を構築するとともに、常に社会や学校を取り巻く情勢の変化に迅速に、有効に対応できるようその維持・改善に努める。また、教員がより多くの時間を生徒対応に使うことができるよう業務のスクラップ&ビルドを追求する。
- イ 教科会を充実させ、日々の教科指導や講習などにおいても、さらに組織的な対応が可能となるよう「槻の木 教科 can-do リスト」と「槻の木 シラバス」の一体化を図った「槻の木 観点別シラバス」を作成する。
※29年度をめどに ICT の活用などにより、事務処理時間や職員会議における情報伝達時間の削減をめざす。

(3) 次代の学校経営の担い手になりうる教員の育成に努める。

3 保護者・地域から信頼される学校づくり

(1) 子どもが「入りたい」保護者が「子どもを入れたい」そして「入ってよかった」「入れてよかった」と地域に信頼され誇りにされる学校づくりを続けていく。学校説明会参加者数の維持に努める。

(2) 本校のウェブページを活用するなど、情報の発信に努め地域の信頼に応える。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自己診断結果…「授業全体が分かりやすい」生徒 80% (昨年 86%) 「授業の難易度が適切である」生徒 84% (昨年 86%) ・教職員の自己診断結果…「各教科において、教材の精選・工夫を行っている」教職員 92% (昨年 92%) 「参加型の学習を行っている」69% (昨年 77%) <p>学習指導に関して授業発表や校内研修を行っているが、研修方法の見直しを考えると必要があると思われる。</p> <p>【生徒指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者の自己診断結果…「規律を守った生活を送っている」生徒 96% (昨年 93%) 保護者 97% (昨年 98%) 昨年度とほぼ同じ。「学校生活についての先生の指導が納得できる」73% (昨年 68%) と昨年度より上昇した。「先生は責任をもって授業やその他の仕事に当たっている」生徒 90% (昨年 91%) 保護者 83% (昨年 82%) と昨年度とほぼ同じ。概ね先生に対して肯定的に捉えていると考えられる。 <p>【学校全体・学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者の自己診断結果…「充実した学校を過ごしている」生徒 86% (昨年 88%) 保護者 90% (昨年 92%) 「入学して良かった」生徒 74% (昨年 76%) 保護者 89% (昨年 89%) とほぼ昨年度と同じ。「今年の体育大会は良かった」77% (昨年 52%) 「今年の文化祭は良かった」79% (昨年 46%) は大幅に上昇し、多くの生徒が入学して充実した学校生活を送っていると考えられる。 ・教職員の自己診断結果…「適正・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担」32% (昨年 43%) 「教職員の相互理解と信頼関係がある」65% (昨年 76%) と下降した。教職員の協働体制を模索したい。 	<p>第 1 回学校協議会 (平成 29 年 7 月 22 日) 自由協議及び提言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・槻の木高校は「額に汗する」事をやってきた。次は、「心に汗を各」「頭に汗をかく」事が必要である。その意味で「槻の木 NEXT STAGE」はいい契機になると思われる。 ・槻の木高校の取り組みについて、その質と量に驚いたが、中学校や保護者などにもっと広報してほしい。HP の更新をもっとしてほしい。⇒ (この夏に HP を刷新します。期待にそえるよう頑張ります。) ・2 年生には月曜日の一限目に英語の週テストをおこなっている。その学力向上への考え方やその手法が評価できる。⇒ (また、その成果も上がりつつあります。) ・中学校や保護者は、高校選択の際に、いろいろな情報を望んでいる。さらに広報に努めてほしい。 <p>第 2 回学校協議会 (平成 29 年 10 月 7 日) 大学入試制度改革について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで高校で取組んでこられた方法論で間違いはないのではないか。これからは問題発見開発能力の重要度が増している。 ・物事を進めるに当たって、「ストーリー」を示さないと主体的にならないと思う。それができる地道な取組みを期待している。 ・槻の木高校の「土台」を再度ブラッシュアップしていく良い時期ではないか。 <p>第 3 回学校協議会 (平成 30 年 2 月 24 日) 学校経営計画、学校教育自己診断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・槻の木高校のアイデンティティを大切にしながら、ブラッシュアップも必要 ・授業で自分の考えをまとめて発表するために調べ学習などはどうか。 ・槻の木高校は学習活動中心と思っていましたが、部活動と学習の両立されている事が分かりました。 ・その他…校則について、学校運営協議会についてなどが話し合われました。

府立槻の木高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
学力の向上と規範意識の醸成	(1) 学習意欲のさらなる向上とより高い志を育む	<p>ア・カリキュラムの検証を進めるとともに、社会の変化に対応した指導方法の実践的研究を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「槻の木 Can-Do リスト」や「槻の木 観点別シラバス」の精査に努め、指導方法の実践的研究を行う。 カリキュラムの検証を進めるとともに、「体験・発表型授業」の実現をめざす。 職業観、勤労観育成のための取り組みを行うとともに、校内での大学個別説明会を行うなどして進路指導の充実を図る。 <p>イ・より高い志をもって進路に挑戦するよう、担任、進路担当、教科担当等学校全体での教員の研修および生徒面談の充実を図る。</p> <p>ウ・課題、予習、復習等による学習時間の維持とその定着を図る方策の検討を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校図書館の更なる活用などを通じて読書習慣や自習習慣の定着を図る。 <p>エ・体験・発表型進路学習のために企業および大学や地域と連携する。「槻の木 NEXT STAGE」の取り組みの継続</p>	<p>ア・講座選択者数などを参考に常に検証する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新シラバスの作成と見直し 教科会での精査と研究の実施 「総合的な学習の時間」等で「体験・発表型授業」の実施 学校教育自己診断で進路指導に対する肯定的回答の 90%以上の維持 (H28: 92%)。 <p>イ・センター受験率 90%以上 (H28:92%)、国公立大学現役合格約 20%。面談回数年間総数(約 700 回)の増加</p> <p>ウ・27 年度 2 年 (10 月)、平日・休日平均 105 分 (H28 年平均 104 分)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断で図書館の活用 78%以上維持 (H28: 78%) <p>エ・参加した生徒に対するアンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> 「槻の木 NEXT STAGE」取り組み回数 5 回以上 	<p>ア・講座選択者数などを確認している。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 新シラバスの作成し見直しも行った。(○) 「槻の木 Can-Do リスト」の精査も行った (○) 「体験・発表型授業」を実施した (◎) 「進路指導に対して」肯定的回答 90% (○) <p>イ・センター受験率 90% (○) 国公立大学現役合格者昨年度より増加 (33 名⇒38 名) (◎) 面談回数年間総数約 1000 回 (◎)</p> <p>ウ・29 年度平均時間 94 分でほぼ維持 (△)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「図書館の活用」70% (△) <p>エ・参加した生徒アンケート満足度 90% (◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「槻の木 NEXTSTAGE」取り組み回数 7 回 (◎)
	(2) 規範意識のさらなる向上	<p>ア・遅刻数・欠席数で府内最少をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の安全確保のため、自転車指導等交通安全週間などを設け、指導の充実を図る。 学校美化や教室清掃に心がけ、学びの場としての学習環境整備に努める。 <p>イ・教育相談体制において、保健課を中心に構築し、担任、学年団、カウンセラーと連携して個々の生徒の情報共有と対応を図る。</p> <p>ウ・人権意識の醸成のため、校内研修に努め、諸問題に対する理解を深める。</p>	<p>ア・学校教育自己診断で「規律を守った生活を送っている」生徒・保護者 95%の維持</p> <ul style="list-style-type: none"> 正門付近、校内等の美化 <p>イ・ケース会議の開催など</p> <p>ウ・校内人権組織の改編と人権研修の開催など</p>	<p>ア・「規律を守った」97% (◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> 正門などの清掃(野球部、「総合的な学習の時間」で清掃実施) (◎) <p>イ・ケース会議の開催 (○)</p> <p>ウ・人権研修の開催 (○)</p>
2 先進的で他をリードする学校づくり	(3) グローバル人材の育成	<p>ア・「槻の木 NEXT STAGE」の一環として国際交流や語学研修等取組み、国際的な視野を育む使える英語力の向上を図る。</p> <p>イ・「槻の木 NEXT STAGE」や学校行事等による取組みによって、主体的に行動できる力や人間関係調整力を身につけさせる。</p>	<p>ア・オーストラリア海外研修旅行、韓国姉妹校研修旅行の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加生徒のアンケート <p>イ・学校教育自己診断で学校行事に関して肯定的回答 5%上げる。</p>	<p>ア・オーストラリア、韓国海外研修(隔年)実施 (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加生徒のアンケート概ね満足 95% (◎) <p>イ「学校行事に関して」80% (昨年 61%) (◎)</p>
	1) 教員の指導力の向上	<p>ア・教科会を定期的に開催し、教科研修の場とするとともに、教科として「槻の木観点別シラバス」や「槻の木 can-do リスト」の達成を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内研修の計画的実施、内容の充実を図る。 授業アンケート等の結果を踏まえ、授業内容の振り返りと改善に努める。 先進校への教員派遣を勧め、さらに先進校の取り組みの導入を図る。 生徒指導においては、生徒の変化を良く見極め、個々に応じた適切な指導ができるよう指導力の向上に努める。 	<p>ア・教科会の定期的開催実現</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断で、研修に係る肯定的回答 95%維持。(H28: 98%) 先進校(高校、大学等)への派遣。 「生徒指導方針に共感」85%維持。(H28:83%) 	<p>ア・教科会の定期的開催(年間 13 回) (◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「研修に係る」89% (△) 先進校(高校、大学等)への派遣 (○) 「生徒指導方針に共感」91% (◎)
	(2) より組織的で効率的な協働体制の構築	<p>ア・職員朝礼や ICT を活用し、教職員間の円滑な情報の伝達と共有を推進する。</p>	<p>ア・教職員間の相互理解についての肯定的回答 80%の維持(H28: 76%)。</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内組織の中期的改善についての検討会議を 5 回以上実施。 職員会議等における時間短縮のための方策 	<p>「教職員間の相互理解」67% (△)</p> <ul style="list-style-type: none"> 検討会議を実施した 8 回 (◎) 職員会議等の資料サイズ統一 (◎)
	(3) 若手教員の育成	<p>ア・管理職、ベテラン教員による若手教員の校内研修を年 5 回以上実施する。</p>	<p>ア・実施回数、受講者による評価。</p>	<p>ア・若手研修の校内研修 4 回 (△)</p>

府立槻の木高等学校

3 保護者・地域から信頼される学校づくり	<p>(1) 子どもが「入りたい」保護者が「子どもを入りたい」そして「入ってよかった」「入れてよかった」学校づくりの推進</p>	<p>ア・進路、生活指導などで実績を積み、それを中学校、中学生・保護者、地域の方々に発信し、信頼にたつ学校づくりを進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育大会、文化祭、個人面談に加え、進路説明会などをできる限り多く開催し保護者の信頼をさらに得るよう努める。 ・政治的教養を育む教育を推進する。 ・照度改善に取り組み、より安全な学習環境の充実に努める。 	<p>ア・「入って(入れて)よかった」生徒80%以上(H28:76%)、保護者90%以上(H28:89%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事に参加したことがある85%以上(H28:86%) ・政治的教養を育む教育の具体的な取り組み ・施設設備の学習環境面で満足できる。70%以上(H28:74%) 	<p>ア・「入って(入れて)よかった」生徒74%保護者89%(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校行事に参加したことがある」84%(○) ・政治的教養を育む教育は授業を中心に実施した(○) ・「施設整備で満足できる」70%(○)
	<p>(2) 地域への情報発信</p>	<p>ア・学校のウェブページや「槻の木NEXT STAGE」の充実などにより地域の方に、学校のもつ情報を地域に還元する。</p>	<p>ア・学校ウェブページの刷新と月10回以上の更新</p>	<p>ア・学校ウェブページの刷新(9月)と年150回の更新(◎)</p>